

地域の力を活かした認知症見守り支援～本人も、家族も、地域も、みんな愛顔に～（愛媛県砥部町）

取組概要

「地域での見守りは地域で」を合言葉に、民生児童委員の役割を整理し、明確な目的を持つことで、地域でのきめ細やかな活動を活性化させることや、老人クラブ等地域に密着した団体等の協働をはじめ、若年層への見守り活動を広げていくことで、より行政の効率化を目指した。

- ・地域の特性を活かした「県立松山南高等学校砥部分校」との協働
- ・「県立松山南高等学校砥部分校」の専門分野である「デザイン」を活かした社会貢献
- ・民生児童委員との地域情報の共有及び民生児童委員活動に対する意識づけ(活性化)
- ・地域(老人クラブ等)を巻き込んだ体制づくり
- ・認知症高齢者の理解のためのサロン活動(ほっとカフェの事業化)

取組の効果

- 高齢者福祉事務の効率化
地域(老人クラブ等)を巻き込んだ体制づくりを推進したことで、緊急対応等の件数が減少し、事務の効率化につながった。
- 地元高校生との協働
誰にでも理解しやすい認知症についての「紙芝居」や「CGアニメーション」を作成し若年層の認知症に対する理解が進んだ。
- ほっとカフェ事業
閉じこもりがちな高齢者の交流の場として利用することで、見守り体制づくりの拠点となった。

創意・工夫した点

- ・地元高校生の得意分野を活用し、「認知症とは？」を紙芝居やCGアニメーションで作成した。
- ・民生児童委員等、地域に密着している人材を相談役として活用した、相談しやすい体制の構築

他団体へのアドバイス

- ・閉じこもりがちな高齢者に対するアプローチは、地域に密着した人材を活用することが重要。
- ・行政と接点の多い、民生児童委員や老人クラブと連携することで、様々な問題が発生した際にも、迅速に対応できる。

人口 21,376 人 (H30.1.1現在)

担当 介護福祉課



地元高校生による認知症普及教材



認知症カフェの様子